



086-245-4343
相談電話 24時間いつでも シミジミ

岡山県民の電話



写真 滋賀県

絶景

斎藤 恵子

ときどき

悪天候のことを思い出します
波立つなかを進んで
結局たどりつくこともできず
疲弊するばかりで
立ちどまるしかなかったことを

かるく進んでいたらと

思っていたこともあったのですが
それは空っぽだということだと
動くことのできない

樹木は

枯れ枝をかかえたまま

つたをからませて

わたしに知らせてくれています

わたしはわたしのなかをそよぐ

ひかりの音に耳を澄ませます

これまで波のまにまに漂ってきたのですもの

もう おそれることなどないのです

のびのび

白波をけたてて進んでいくだけなのです

市民公開講座「こころの力」 多様な性と共生社会を目指して

2018年8月6日 国際交流センター（岡山市）

カラフル@はーと共同代表 トランスジェンダー活動家
浅沼 智也氏



智子から智也に

僕は浅沼智也といいますが、もともとは智子でした。岡山県総社市出身です。トランスジェンダー活動家と名乗りLGBTQの問題に真剣に取り組んでいます。23歳で性別適合手術を行い女性から男性に戸籍を変更しました。今は男性看護師として働きながら、性的マイノリティの啓発活動をしています。

カラフル@はーとの共同代表でもあります。これは性的マイノリティ当事者の自助グループで、性的マイノリティでありながら精神障害、発達障害、依存症をもった方々の交流会を開いています。セクシャリティも様々でLGBTの方々が入っています。

トランスジェンダーとは

LGBTとは。Lがレズビアン女性の同性愛者、Gがゲイ男性の同性愛者、Bがバイセクシャル両性愛者、Tがトランスジェンダー性的越境者になります。LGBは性指向、Tは性自認になります。日本の全人口のLGBTの割合は2015年の統計では全人口の7.6%、13人に1人の割合でいるといわれています。

トランスジェンダーは身体の性と心の性が不一致で違和感がある人を指します。同性愛者ではありません。目には見えない差別をかなり受け、世界ではトランスジェンダーの人が暴力の犠牲となり命を落としています。

性同一性障害ですが、身体とところが一致をしていない状態です。略してGIDとも言います。僕は元々身体は女性、でもこころは男性。トランスジェンダーは医学的疾患名ではありません。僕みたいな人は約5000人に一人いるといわれています。逆に身体が男性ところが女性15000人に一人といわれています。

2018年6月WHOが国際疾病分類から性同一性障害を削除し、精神疾患ではなく障害でも病気でもないと言われました。効力を発するのは2022年以降ですが、性同一性障害という言葉はなくなっています。

僕たちカラフル@はーとですが、LGBTでありながら身体障害、精神障害、発達障害、依存症をもっている方をダブルマイノリティと表します。少数派の中の更に少数派で、かなり孤立します。ダブルマイノリティの自殺率は高いです。

幼い頃から性に違和感

僕の場合、性別違和感はずっと小さい頃からありましたが、二次性徴になって嫌悪感に変わっていきました。男なのに女性化する身体、男なのに生理がきた。胸も膨らんでガムテープでつぶしました。当時僕は誰にも相談できなくて、周囲に理解してもらえない、自分自身が何者かわからない、ずっと葛藤してきました。

僕は幼少期から自分は男なのか女なのか自分に問うてきました。そして強要される女らしさ、男らしいことへの周囲からの嫌悪感、「女の子なんだから『僕、俺』なんて言葉汚いよ」と親に言われてきました。「女の子なんだから髪を伸ばしなさい。短くしたらおかしいよ」と。

性別移行期ですね。自分自身が「やっぱりおかしい。病院へ行きたい」と思ったんです。2009年に岡山大学、メンタルクリニック、大阪のクリニック3つの病院で

性同一性障害と診断をされました。

高校時代、保健室に登校していた時期が多く、相談できず殻に閉じこもっていました。ある日もう我慢の限界がきて養護教諭の先生に「もう自分はしんどい。何者かもわからない」と言ったんです。そうしたら先生から「あなたは性同一性障害じゃないのかな」と言われ資料をもらいました。そこで「自分はこれかもしれない」と希望がもてたのです。

そして高校を卒業して逃げるように県外に行き、大阪で2つのクリニックを受診して性同一性障害という診断をもらいました。ただ僕の中では「障害者？こころの病気？そんなことあるの？」という気持ちでした。

でも、性同一性障害という診断で「病気だから仕方ないね」というふうにいわれ、障害者ではないんですが、かなり性同一性障害という言葉に救われました。

性別変更は大変

治療ですが、精神科に受診しカウンセリングを先生から受け、身体的な性別診断、これまでのことなど質問をされ、そして医師二人による診断意見をもらい、そしてやっとホルモン療法、手術療法、戸籍を変えたい人は戸籍性別変更の手続きができるようになります。この段階で僕は先生の診断をもらうのに1年ちょっとかかりました。

ホルモン療法で、声が低くなり筋肉質になり胸が小さくなり陰部が肥大化します。髭が生え骨格がでてきます。そして生理がなくなります。成人式、親の反対を押し切って袴を着て行きました。地元の友達にもカミングアウトをしてなかったので、この人は誰だろうみたいになっていました。

ホルモン注射で暴飲暴食になって太り、ニキビが増加し更年期症状が出現します。また戸籍と外見が異なるために性別がついている身分証を見せる時に「女性と書いていますが、見た目が男性ですね。本人ですか」と確認される事が多かったです。

改名は家庭裁判所の許可が必要です。15歳未満だと法定代理人、主に親が代理をして申請します。

手術は僕は岡山大学の光生病院というところでやりました。約1週間入院で60万かかりました。子宮、卵巣摘出術は23歳のころタイでした。高度な日本語はなかなか通じないのでかなりリスクです。

戸籍変更は2名の医師の診断が必要です。移行する生殖器に近い状態であることを病院で確認しなくては行けないし、性同一性障害の条件を全てクリアしなければいけない。性別変更をするのはとても大変です。

治療しても生きにくい

治療をしても、まだ生きにくい。そしていろんな障害がでてきます。僕自身も子宮と卵巣を取ったことで更年期が今きています。

当事者の中にも誤診ということで、戸籍を変更してまた戻っている方もいます。例えば僕の場合は男性に変更しましたが、「やっぱり女性かもしれない。先生誤診だよ」と言って女性に戻る人もいます。ただ戻っても声も胸も戻らなかったり、子どもが産めなかったり、いろんなリスクがあります。周囲に性的違和感を訴えている人がいても一歩おいて考えてあげてください。

日本では後戻りができないです。

2018年からGIDが保険適用になりました。保険適用はホルモン療法をしていない診断を受けた当事者のみです。ハードルが高いです。ホルモン療法をしている人は適応外になります。「LGBTは都会にしかないよ」と言われたりしますが、何処にでもあります。地方ではなかなかカミングアウトしにくく埋没して生活している人は多いです。そしてLGBTは見えて分らないことが殆どです。同性愛者の殆どは偏見を恐れて分らないようにしています。

青春時代＝苦悩時代

僕の場合は青春時代＝苦悩時代と言っています。理解してくれる人がいない辛さ。繋がる場所もない。髪を伸ばし女性らしく振舞うことによって輪の中に入ろうとして頑張っていました。そして毎日誰もいないところで一人泣いていました。

僕は一人っ子で非常に孤立感、孤独感は強かったです。好きになった人もいましたが、告白しようと思っても気持ち悪がられたらどうしよう、自分の事が説明できないし、何者だろうということがずっと頭によぎっていました。

自殺未遂をしたことがあります。中学、高校とリストカットをしていました。自分自身を守るためです。毎日必死に生き、「今日頑張ったら死のう」「明日もう終わらせよう」そういうふうになんか思っていました。が、夕方になると自然に「ああ明日も生きていいかな」みたいに思って、毎日その繰り返しでした。

そして親にカミングアウトしても理解がなくて、18歳の時、性同一性障害と診断された岡山大学病院で、親は「こころと身体を一致させる薬はありませんか」と言い、先生は「それは無理です。ホルモン治療で進んでいった方がいいと思います」と意見が分かれて親とは険悪なムードになりました。そんな中で20歳になって「人生もういいかな」と手首を深く切ってしまったんです。ただ失敗に終わりまして、現在生きています。

無理解や偏見で疎外感

自殺未遂者は異性愛者の6倍です。要因として、無理解や偏見がある。僕の自助グループにきている人も最近自殺をしました。やはり社会に自分を認めてもらえなかった辛さで、ある日薬を大量に飲んで、家で死んでいるところを発見されました。

社会生活において「身長低いし、顔も女っぽいけどどっちなの」と聞かれることがあります。「放っておいてくれ」という感じです。また「性転換って自己満足でしょ」といわれたりすることもあります。

子ども時代の僕の願望ですが学校で性について学びたかったです。性にはグラデーションがあるということです。選択肢がたくさんほしかった。サポートしてくれる大人が欲しかった。変にカミングアウトすると自分がいじめの対象になってしまいます。

僕は親にカミングアウトできなくて女子高に行き、そこで疎外感や孤独感はとても強かったですね。宿泊研修もあって、自分は性同一性障害とカミングアウトしたのですが、考慮されずに一緒に部屋にされお風呂も一緒に入ることを強制されました。

暴露(アウティング)されてうつ病に

アウティングとは、本人の了承を得ずに公にしている性指向や性自認を暴露する行動のことです。僕も実際にアウティングをされたことがあります。戸籍は女性だったのですが、男性として勤務可能な病院へ行ったのです。性別がわかるものに関しては隠してもらい配慮されたのですが、ただ幹部しか知らない情報をスタッフほぼ全員知っていました。僕自身は話していませんでしたが、患者さんも何人かは知っていて「実は

元女性らしいよ」こそこそ影で言われていたのです。メンタルが低下し「やっと男として生活できる」と思ったのにどんどん気分が落ち込んで、気づけばうつ病になっていました。

LGBTに対する職場での配慮ですが「ホモ」「おかま」「レズ」「おなべ」などからかう言葉は使用しない、噂話はしない、LGBTの存在を否定しない、カミングアウトされたら、落ち着いて受け止めて、第三者には話さないでください。

性的マイノリティの方々が直面する困りごとは、いろいろあります。貧困、見た目と戸籍の性別が違うということで病院を嫌厭、同性婚が日本では認められてないため遺産相続ができないとかお葬式に出られないこともあります。HIVが多いです。

住居、就職活動、学校、恋愛、職場、結婚いろんな問題があります。トイレ問題はすごく問題になっています。就職問題ですが、僕は医療機関2社で不採用になっています。「戸籍上女性で男性として勤務したい」と面接時にカミングアウトしたら「事例がないからダメだ」と断られたこともありました。

打ち明けて(カミングアウトして)

カミングアウトは何かということですが、自分の性自認、性指向を相手に打ち明けることです。僕の初のカミングアウトをした養護教諭の先生は理解がありとても助かりました。

カミングアウトのプラス面は、本当の自分を隠す必要がなくなります。オープンに暮らせるようになります。他のLGBTの仲間と知り合えます。ただカミングアウトする時はとても怖いんです。

母方の祖父が他界して、町内会の人がお通夜や告別式に来たのですが、幼少期を知っている人たちは僕を奇異な目で見るんです。「あれっ。あそこの子でもって娘じゃなかったっけ」と、公開カミングアウトみたいになったんです。葬式屋の人は僕のことを息子だと思い、町内会や親戚は女性と思い、カオスな状態で「じゃあ息子さん前にきてください」と言われた時にざわつくんです。「あれっ。あれは誰だ」。僕が「女性だったけど男性になったんだ」といってもみんな混乱するんです。結局、智子の旦那というポジションにたどり着きました。

何度説明しても分からなくて「奥さんはどこに行ったんですか」「浅沼家の子どもは女ではなかったのか」「娘から息子になったらしいよ」と聞こえてくるんです。「放っておいてくれ」と思いました。

相談を受ける時

相談を受ける時の6ステップですが、①最後まできちんと話をききましょう。②セクシュアリティを決め付けない。「自分はこころが男性だけどからだは女性なんだ」と言われたときに「じゃああなたは性別違和なんだ」と決め付けないように。性のグラデーションはかなり沢山あります。③その人に寄り添って何がいいのか考えてあげましょう。④「話してくれてありがとう」感謝の気持ちを伝えてください。⑤どうして自分に伝えてくれたのか、何に困っているのか聞いてあげてください。⑥誰に話しているのか、誰に話してもいいのかを確認してあげてください。当事者が勇気を振り絞って言ったことでもアウティングをされてしまうと殻に閉じこもってしまう方も多いです。必ずどこまで繋げていいのかを聞いて、その情報を伝え続けてください。

僕たちの活動内容ですが、不妊治療のアドバイザーも行っています。そしてカミングアウトのサポートも。カミングアウトしても理解してくれる人が少ないと自殺する人もいます。医療機関へのLGBT理解促進の働きかけ、一般者向け勉強会を開催しています。

ご静聴ありがとうございます。

(要旨 文責広報部)

人生問題の増加

40代男性の自殺関連の増加



総受信件数

9,364件(うち男性 4,932件、女性 4,372件)

自殺関連件数

888件(対受信率 9.48%)

(数値は全て統計部による)

1、高齢者の増加

全体件数は、前年の1月から6月の上半期に比べ約110件減少で、男性件数が約120件減少し女性件数が約10件の増加でした。(図1) 男女比は53%対47%となりました。

男女合わせた年代では40代と50代が多くありました。前年同期の40代は2,000件を越え全年代で最も多い年代でしたが、今期40代は200件以上の減小で、男女とも減っていました。そして50代が最も多い年代となりました。

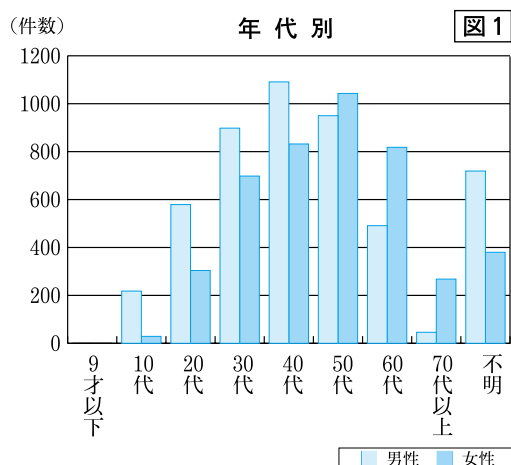
最も多いのが40代男性、次いで50代女性で、これは前年と同じでした。次いで50代男性、30代男性となりました。

20代は男性が約60件減少、30代は男性が約130件減少で女性約50件増加、40代は男性約50件減少で女性約180件減少、50代は男性約40件増加で女性約20件減少、60代は男性約80件増加で女性約10件減少、70代は女性約140件の増加でした。

60代男性と70代以上女性の増加、30代男性と40代女性の減少が今期特徴的に見られました。またこれまで70代以上は全年代の中で最も少ない傾向でしたが、今期は10代を越えました。10代は前年と同数でした。

60代70代は子どものころから電話に馴染み、駅や道端には公衆電話が設置されていた時代に生きていたので電話を掛けることにあまり抵抗感がありません。

10代の方も、もっと気軽に相談してほしいと思います。10代ならではの悩みがあるでしょう。知らない人と電話で話すことにためらいがあるかもしれませんが、心配はいりません。岡山いのちの電話へどうぞ掛けてきてください。



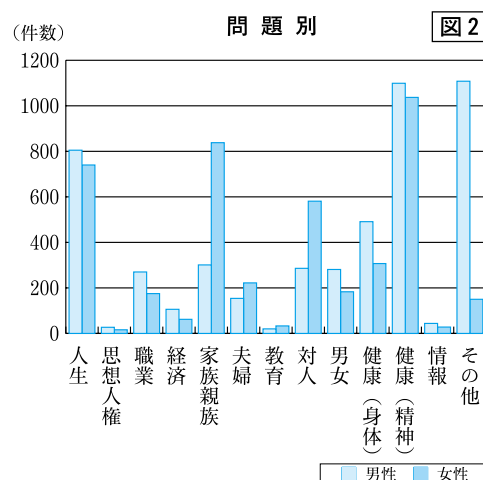
2、女性の家族問題の増加

問題別で、男女合計が最も多いのが精神の健康問題で男女とも1,000件以上あり合計2,000件を越えていました。精神の健康問題で悩む人の多さを思います。ただ、前年に比べ男女それぞれ約100件の減少でした。(図2)

次いで多いのは人生問題で、男性約90件女性約30件の増加で男女合計約1,540件でした。家族問題は女性約190件の増加で男女合計は約1,140件となり1,000件を越えました。

男性件数で最も多いのが精神の健康問題、人生問題、身体の健康問題で、これは前年と同様でした。女性件数では精神の健康問題、家族問題、人生問題の順になりましたが、前年は精神の健康問題、人生問題、家族問題でした。家族問題が人生問題よりも多くなったことに、家族問題を負う女性の悩みの深さを考えさせられました。

男女差は精神の健康問題と人生問題は差がありませんが、家族問題、対人問題は女性件数が多く、身体の健康問題では男性件数が多くなりました。仕事をする場合、男性に体力が求められることが多いからと考えられました。

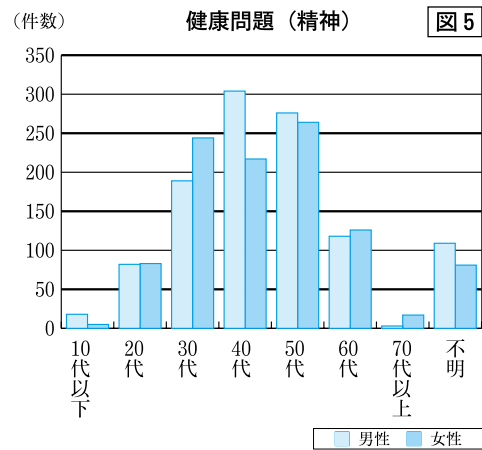
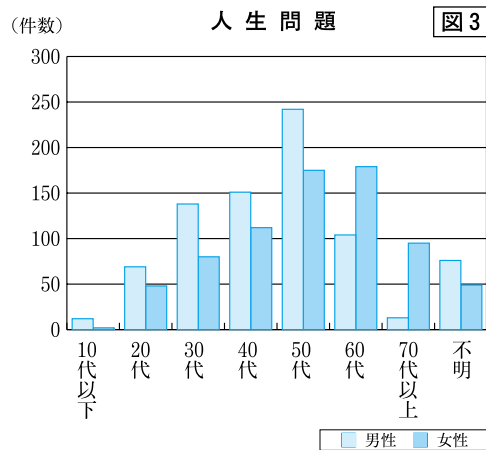


3、人生問題の50代60代男性の増加

人生問題は前年は60代女性が最も多くありましたが、今期は50代男性が約90件増加し最も多くありました。(図3) 女性件数は60代50代40代に順に多く、これは前年と同じ傾向でした。

男性件数は50代が最も多く、次いで40代30代60代となりました。前年は40代が最も多く、また20代は60代より多い件数でした。今期は男性60代が約30件増加でした。

50代60代の男性の増加から、この年代の仕事やお金の悩みが考えられました。求人はあっても若い年代で、中高年には厳しい状況が続いています。50代男性が最も多い件数であったことは、そうした社会を反映しているのではないのでしょうか。また前年は男女比は50%対50%でほぼ同数でしたが、今期は男性の方が多く52%対48%、全体に占める割合は15%から16%へ増加でした。

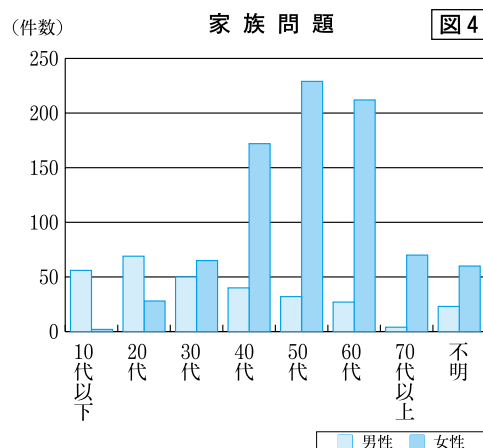


4、40代から60代女性の多い家族問題

家族問題は前年に比べ約140件増加でした。(図4) 女性が約190件増加、男性約50件減少でした。全体に占める割合は12%で、前年は11%でした。男女比は26%対74%で、前年は35%対65%に比べ差は大きくなりました。

50代60代はとくに男女差は著しく、男性の7倍以上になりました。男性は20代が最も多く年代が上がるにつれ減少傾向でしたが、女性は50代60代40代の順に多く70代以上でもどの年代の男性件数より多くありました。親の立場での問題と思われます。

家族問題の男女差の大きさに家族問題を女性が多く担っている現実を考えられます。さらに家族問題は簡単に解決できる問題は少なく、それぞれの家族の数だけ問題は考えられ、社会の問題とも関連する難しさがあります。だれにも言えない問題が多いのではないのでしょうか。どうぞ電話で話してください。

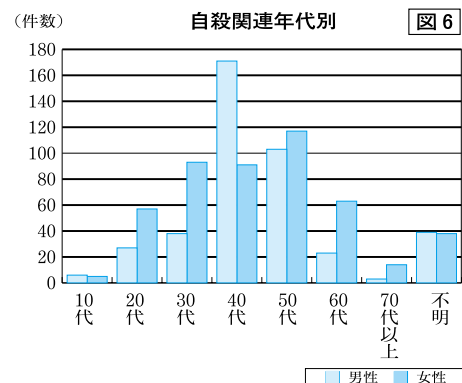


6、40代男性の自殺関連増加

自殺関連件数は前年同期に比べ約50件の減少。全体で888件でした。(図6) 男性は前年に比べ73件増加し410件。女性は126件減少で478件。男女比は46%対54%。男性40代が約70件増加、50代が約20件増加、30代約30件減少でした。女性は70代以上が約10件増加、50代約70件減少、40代約40件減少、20代60代それぞれ10数件減少でした。最も多いのは40代男性で約170件、次いで50代女性50代男性になりました。

問題別では男女とも精神の健康問題が最も多く、次いで人生問題でした(図7) 男性は精神の健康問題が最も多く次いで人生問題、身体の健康問題でした。女性は精神の健康問題が最も多く、次いで人生問題、家族問題でした。身体の問題以外はすべて女性の方が多くありました。

精神の健康問題が自殺関連の35%を占め、全体の中で最も多い割合でした。そして40代50代からが多くありました。

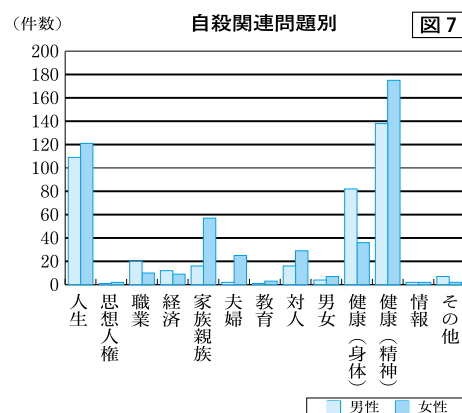


5、最も多い精神の健康問題

精神の健康問題は男女合計約2,100件で前年に比べ約200件の減少でした。男女とも減少で全体に占める割合も25%から23%となりました。(図5) 各年代で減少でしたが、中でも40代は約100件減少でした。男女比は前年は50%対50%でしたが、今期は51%対49%と男性の方が多くなりました。

年代では50代40代30代の順に多く、50代40代は500件台ありました。40代男性が最も多く、次いで50代男性50代女性30代女性40代女性の順になりました。20代50代60代の男女差は少なく、30代40代は男女差が見られました。

減少傾向とはいえ、男女ともどの問題より精神の健康問題は多く、年代もさまざまです。悩みを抱え込まず電話を掛けて頂きたいと思っています。



電話を掛けることは、今の若い人はケイタイ、スマホで直接相手と話し、見知らぬ人と話すことに抵抗があると聞いたことがあります。でも大丈夫です。見知らぬ人だからこそ秘密が守られるからこそ話せることがあるのです。私たちは電話の前であなたが掛けてくるのを待っています。

(文責 編集委員)

「はい、岡山いのちの電話です」
あなたも相談員として
 仲間に加わっていただけませんか

第36期 相談員募集要項

募集人員	40名程度
応募資格	23歳～65歳程度（ご相談ください）で、いのちの電話の趣旨に賛同し、活動に積極的に参加できる方。 特に深夜帯に活動できる方を歓迎します。
受講費用	20,000円（1泊2日の宿泊研修を2回分含みます） ※岡山県電話相談支援事業委託により、受講料減額中です。
受講期間	2019年4月4日（木）～2020年3月19日（木）予定 おおむね月3回 木曜日 18：30～20：30
申込手続き	1. 決められた申込用紙 2. 「受講動機」と題する作文（800字以内） 3. 「私の生い立ちと今の自分」と題する作文（2,000字以内） 4. 申込料 1,000円（100円以下の切手でも可）
募集期間	2018年12月～2019年3月2日（土）予定
面接日	2019年3月9日（土）午後予定 場所は別途お知らせします。 （申し込まれた方は面接を受けていただきます。場合によっては受講をお断りする場合もありますのでお含みおください。）

ホームページもご覧ください <http://okayama-inochi.jp/>

No	開催日	講義内容
1	2019年 4月4日(木)	開講式 人間関係づくり（グループワーク）
2	4月11日(木)	いのちの電話とそのボランティア
3	4月18日(木)	人の心の発達
4	5月9日(木)	カウンセリングのこころと方法
5	5月18日(土)～19日(日)	人間関係体験学習（1）（宿泊研修）
6	5月23日(木)	宿泊後フォローアップ研修
7	5月30日(木)	病める心の理解と援助①（主に精神病）
8	6月6日(木)	病める心の理解と援助②（主に神経症）
9	6月13日(木)	病める心の理解と援助③（主に発達障害）
10	6月28日(金)	女性のこころのケア
11	7月4日(木)	自分を見つめる－内観療法－
12	7月11日(木)	PTSD（心的外傷後ストレス障害）適応障害
13	7月20日(土)～21日(日)	人間関係体験学習（2）（宿泊研修）
14	8月1日(木)	電話相談の方法（1）積極的傾聴の意義と技法
15	8月8日(木)	電話相談の方法（2）質問・助言・情報提供
16	8月22日(木)	ショートカウンセリング（1）
17	9月5日(木)	ショートカウンセリング（2）
18	9月12日(木)	ショートカウンセリング（3）

No	開催日	講義内容
19	9月19日(木)	ショートカウンセリング（4）
20	9月26日(木)	ショートカウンセリング（5）まとめ
21	10月3日(木)	青少年の理解と対応
22	10月10日(木)	家族関係論－家族療法から－
23	10月17日(木)	自殺の心理と介入
24	11月7日(木)	頻回通話者について
25	11月14日(木)	性の問題と電話相談
26	11月21日(木)	電話相談員の危機
27	12月5日(木)	相談員と語る（電話相談のスピリット）
28	12月12日(木)	社会資源とその情報提供の仕方
29	12月19日(木)	実地訓練に入るに当たって（見学・先輩と語る）
30	2020年 1月～3月	実地訓練
31	1月23日(木)	ケース研究（1）
32	2月13日(木)	ケース研究（2）
33	3月5日(木)	相談員と語る（グループ討議・閉講式）
34	3月19日(木)	認定式
35	6月18日(木)	認定後フォローアップ研修

岡山自殺予防シンポジウム「地域ネットワークがいのちを救う！」
117名のご参加ありがとうございました

■2018年11月17日(土) オルガホール

■基調講演：指定討論者：清水康之氏（NPO法人自殺対策支援センターライフリンク代表）
「誰も自殺に追い込まれることのない“生き心地の良い岡山”を目指して」

■シンポジスト：野口正行氏（メンタルセンター岡山所長）
大塚忍氏（自死遺族の会いこいのみぎわ主宰）
日下部祐子氏（総社市ひきこもり支援センターセンター長）

■指定討論者：清水康之氏

■コーディネーター：藤井和郎氏（吉備国際大学教授）

皆さんから「自殺ということに正面から向き合い他人ごとにするのではなく考えることができた」「岡山にも、各区・各学区での自殺対策の地域ネットワークがほしい」など切実なご意見をいただき、いのちの電話の役割を改めて心に刻みました。



ご意見も多く熱い討論

第35回 いのちの電話全国研修会 にいがた大会に参加して

新潟全国大会は10月18日(木)から20日(土)までであり、岡山からの参加はスーパーバイザーと相談員総勢11名。会場はホテルオークラ新潟。全国から約600人の参加。

開会式あとの基調講演1は家田荘子さんの「この世に生まれて、生きて、生かされて」。家田さんは作家であり高野山の僧侶でもある。体当たりの取材をし、エイズ患者と過ごした頃は、エイズは世界中で差別と恐怖の対象であったこと、自身も最初は怖ろしく思ったこと、ともに過ごしていく中で理解できたことなど体験を話した。また自身の失恋経験のことも話し、死にそうになるほど苦しんだが1年後偶然出会ったときは「なんでこんな男を」と思ったという。生きていけば周りも変わり自分も変わる、生かされているいのちの大切さを語った。

基調講演2は「三味線と生きる～人生の絶望から救ってくれた母の一言」で三味線演奏の史佳・高橋竹育さん母子の演奏とトーク。大手通信会社に就職するも疲弊し病み、新潟県に帰る母の支えて三味線を弾くようになった史佳さん。彼の話と演奏は病んだことが考えられないほど自信に満ち

ていた。

2つの講演を聞きサポートする人がいるということの大切さを思った。親身になってくれる人がいれば生きていくことができるのだと。

懇親会は室外まで
テーブルが置かれる
大盛況で、太鼓演奏、
歌などもありにぎやか

2 日目は場所を変え新潟ユニオンプラザで分科会が行われた。3 日目午前は「自殺予防対策大綱といのちの電話」というテーマでシンポジウム。堀井会長はシンポジストの一人としてのいのちの電話の役割と今後の問題点を話した。閉会式では、次回は岡山開催ということで岡山のメンバーが壇上に上がり皆にお誘いのメッセージを送った。(S)



満席の盛況でした

2018 年

事務局日誌

6月22日	中央警察署協議会（草苺）
6月30日～ 7月1日	中国四国ブロック会議・研修会（草苺、瀧本）
7月4日	講師派遣 勝矢町 人権教育（草苺）
7月4日	講師派遣 真庭高等学校落合校地（森口）
7月5日	講師派遣 備前市 人権セミナー（草苺）
7月13日	フリーダイヤル研修①（講師 山田素朋子氏）
7月19日	日本いのちの電話連盟理事会（堀井）
7月25日	おかやま子ども若者SN実務者会議（草苺）
7月27日	中国労働金庫 寄附贈呈式
7月30日	講師派遣 京山中学校区人権学習（平松）
8月9日	岡山県自殺対策連絡協議会（堀井、草苺）
8月19日	市民公開講座こころの力 「LGBTQ×メンタルヘルス」（講師 浅沼智也氏）
8月23日	岡山市自殺対策連絡協議会（草苺）
8月25日	講師派遣 高知いのちの電話養成講座（森口）
9月2日	連盟研修委員会（平松）
9月7日	自殺予防デー（10日） 駅前ティッシュ配布（平松、佐野、草苺）

9月16日	フリーダイヤル研修②(講師 三瓶弘次氏)
9月21日～ 23日	日本自殺予防学会 研修会・シンポジウム(堀井、草苅)
9月27日	講師派遣 備北保健所 愛育リーダー研修(平松)
10月1日	共同募金運動オープニングセレモニー(草苅)
10月6日	スーパーバイザー部会
10月10日	講師派遣 勝山高校蒜山高地(森口)
10月28日	市民公開講座こころの力「家庭・学校・地域で育てる子供の成長」(講師 仲間知穂氏)
11月5日	講師派遣 高梁高校(森口)
11月10日	日本いのちの電話連盟理事会(堀井)
11月17日	第32回岡山自殺予防シンポジウム
11月30日	講師派遣 備前緑陽高校(森口)
12月2日	講師派遣 倉敷市新田公民館(草苅)
12月12日	講師派遣 玉島商業高等学校(森口)
12月13日	講師派遣 新見市ゲートキーパー研修(草苅)
12月15日	自殺対策円卓会議(堀井)

*毎月 11 日はイオン黄色いレシートキャンペーン募金活動
*毎月 10 日は自殺予防フリーダイヤル (AM8:00 ~ 翌 AM8:00)

資金ボランティア大募集 !!



あなたも、あなたのお知り合いも、職場の方も、職場も資金ボランティアになって支えて下さい

<維持会員>

個人	A 年 額	2,000円
	B	3,000円
	C	5,000円
	D	10,000円
団体	一口	10,000円 何口でも

お振込先

郵便振替 01260-4-15857 岡山いのちの電話
銀行振込 中国銀行大元支店 普通預金 1223257
社会福祉法人岡山いのちの電話協会 理 事 堀 井 茂 男

<賛助会員>

折々に自由な金額でご寄付下さる方。
お誕生、お香典返しなど折々に頂けますと幸いです。

<寄付金控除について>

- 法人は、「特定公益増進法人」への寄付金として、一定金額内で損金算入ができます。
 - 個人は、「特定寄付金」として、支出寄付金額から2000円を控除した金額と総所得金額の40%の少ない金額の範囲内で寄付金控除の対象になります。
- また寄付をした翌年1月1日に岡山市に在住の方は住民税の寄付金税額控除が受けられます。

岡山いのちの電話市民公開講座 「こころの力」にご来場ありがとうございました。

- 「LGBTQ×メンタルヘルス」8月19日(日) 浅沼智也 氏
(カラフル@はーと共同代表)
 - 「家庭・学校・地域で育てる子供の成長」10月28日(日) 仲間知穂 氏
(YUIMAWARU代表取締役・こども相談支援センターゆいまわる代表)
- いつも新たな知識がもらえて、楽しみな講演会です。2019年も開催を予定していますので、ご参加ください。

毎月11日は「幸せの黄色いレシートキャンペーン」で レシート投函をお願いします。

イオン岡山では岡山いのちの電話の投函BOXが設置され、マルナカ倉敷市内13店舗(1/11、2/11まで 倉敷駅前、マスカット、中庄、連島、チボリ、真備、老松、勇崎、天城、茶屋町、中島、児島、新倉敷)でも岡山いのちの電話が登録団体となっています。投函レシート金額の1%がイオンから寄付されます。今年はエアコン掃除をイオンの業者さんをお願いしました。これからもご協力をよろしくお願いします。

第36回いのちの電話相談員全国研修会おかやま大会・第16回 アジア太平洋地域電話カウンセリング国際会議を開催します 「かけよう心をつなぐ橋」

日程：2019年10月24日(木)～26日(土)
会場：岡山プラザホテル、岡山国際交流センター
主催：日本いのちの電話連盟、岡山いのちの電話協会
海外からの参加者も迎えて、全国研修会と国際会議を同時開催します。
700人の参加者を見込んで実行委員会では、内外のご協力をいただきながら全力で取り組んでいます。

期間限定 共同募金「ささえあいプロジェクト」 ご協力をお願いします。

2019年1月4日～2月28日に郵便局窓口にて専用振込用紙でご寄付下さい。岡山いのちの電話の活動資金として割増金付きの給付があります。1月、2月期間限定ですのでご注意のうえご協力をお願いします。

編 集 後 記

新聞の記事で、仮設住宅に暮らすことになり近所に挨拶に行こうとしたら、知人に「もう今はそういう時代じゃないから」と止められ、近所付き合いもなくさびしい思いをしているというのを読んだ。今は挨拶をしない人も、個人情報を知られたくないからと表札も掛けないで部屋番号を表札代わりにしている人もいます。

芭蕉の句「秋深し隣は何をするひとぞ」は「隣の家の人は何をしているやら分からない」という不信感ではない。「隣に住む人はどんなにして過ごしているのかなあ」と人を思いやる気持ちである。現代のマンション生活では誤解する人が多いようだ。

やはり顔を合わせたとき、挨拶はしたほうがよいと思う。そして見知らぬ人にも「どんなにして過ごしているのかなあ」と思う気持ちも大切にしたい。(S)



共同募金のささえあいプロジェクトの
助成金をいただいています。

第36期相談員養成講座募集説明会開催

日時 2019年 1月13日(日) 13時30分～15時 または
2月3日(日) 13時30分～15時
どちらかにご参加ください。
会場 きらめきプラザ2F研修室2
(岡山県総合福祉ボランティアNPO会館：岡山市南方2-13-1)
事前申し込みは不要です。お気軽なお越しください。

こちらは自殺予防いのちの電話です

毎月10日8時から11日8時は、全国のセンターが協力して、フリーダイヤルで相談を受けます。
2017年は全国で30,289件受信(内自殺傾向件数26.9%)しました。岡山ではその内965件を受けました。
福島からの避難者相談電話、毎月11日8時から22時の「ふくしま寄り添いフリーダイヤル 0120-556-189」を岡山でも受けています。

0120-783-556

岡山いのちの電話は講師派遣をしています。

事務局日誌に掲載の通り、学校、企業、団体などに「岡山いのちの電話」のスーパーバイザーが参ります。岡山県の人権教育講師の登録もしています。
詳しくは事務局(086-245-4344)までお問い合わせください。ホームページもご覧ください。

発 行 社会福祉法人 岡山いのちの電話協会
発行者 堀 井 茂 男
編 集 岡山いのちの電話協会広報部
事務局 岡山市北区上中野1-3-5 TEL 086-245-4344
FAX 086-245-7743
ホームページ <http://www.okayama-inochi.jp>